

思い出は新聞とともに

EPISODE

130th
MINYU

福島市 福島大付属中学校3年
にし 花 璃さん

2023年、みんゆうジュニア情報局こども記者として「こども記者サミット」に参加。こども家庭庁で子どもの意見を政策に反映するよう大臣に提言した。

「編集日記に「推し記者」」
か「判断しにくい。新聞は見出しの大きさが重要で、ひとつで分かり、一番頼れるメディア。民友新聞はレイアウトが見やすく余白があり、グラフィックもあって視覚的に覚えられます。記事で日本のジェンダーギャップ指数ランキングが118位と知り、衝撃を受けました。ごみ排出量が都道府県別でワースト1だった。

た記事を読み、分別を徹底するようにしました。作文が好きで、題材はスクラップした新聞記事から選んでいます。編集日記は毎朝楽しみです。本の話題から、最後は全然違う社会の課題に鋭く切り込むコラムなど構成力に圧倒されます。短い文章の中で見事に伏線を描き、回収してくるところが面白い。今は編集日記に「推し記者」がいます。ペンネームでもいいので、名前を入れてもらってファンが増えると思います。学習指導要領に「生きる力」が大切とありますが、まさに新聞を読めば養えます。影響力のある人が、もっと「新聞読んだ方がいいよ」と周囲に伝えてほしいですね。

編集日記に「推し記者」

福島民友新聞は毎朝、父から兄そして私という流れで読みます。朝食を食べながら、1面から見出しを見てページをめくり、興味のある記事に目を通します。学校から帰ってきたら大事だと感じた残りの記事をつくり読みます。夕食時家族で読んだ記事や話題に議論することもあります。幼い頃から家に新聞があり、狭い地域の人間模様を読み取って面白いです。

父との思い出

相馬市 森 由香子さん(62)

新聞といえば高校まで住んでいた実家で交わした父とのやりとりを思い出す。その頃の私は、世間で話題になっている出来事に疎く、分からないことがあると父に説明してもらっていた。そのとき、父はいつも「新聞を読まないからだ。読めば、世の中のいろいろなことが分かるようになる」と読むことを勧めた。父は、そんな私に「この部分、読んでみろ」とよく新聞を見せることがあった。「面倒くさいなあ」と思う時もあったが、その場で必ず読んで父に返した。「もう読んだのか？ちゃんと読んだのか？この記事をどう思う？」と必ず確認してきた。私は、いつも「読んだよ」と答え、短く感想を伝えた。父は、未熟な私に注意喚起として、生活の知恵として、反面教師として、記事を材料に世の中のことをいろいろと教えてくれた。今でも、その時に父から教わったことは覚えているし、肝に命じていることもある。もうこの世に父はいないが、今でも私の人生に生かされている。

苦は楽の種

福島市 叶内 寛之さん(46)

現在、社会人25年目、46歳の銀行員です。新入行員時代に、朝職場で新聞を読んでいたところ、先輩から「今日の新聞のポイントは？今日の市況はどうなる？」と毎日質問責めに。うまく答えられないでいると、先輩は「新聞は出勤前に熟読して来い、今から販売店に電話して、配達時間を早めてもらえ」。次の日から早朝の午前4時から2時間、新聞を読む生活が始まりました。

新聞熟読を勧めた先輩が転勤するまでの3年間、先輩からの質問に備え新聞を読む毎日。先輩が転勤の日によく3年間頑張ったな、新聞を読むことは知識を頭に積んでいくこと。降り始めても最初積もらないが降り続くうちに積もる雪のように知識を積んでいけ。読むのをやめたら雪が溶けていくように知識も消えていくとアドバイスされました。

当時は苦手な先輩でしたが、その日課は現在も継続しています。今は感謝の気持ちでいっぱい。久々にその先輩と今日の新聞のポイントを話してみたいと思う今日この頃です。

父のトラクター

二本松市 阿部 順子さん(58)

今から17年前のことでした。私の母はガンを患い旅立ってしまいました。まだ74歳でした。父は、その時78歳でした。一番悲しみ、一番寄り添っていたのは、父だったかもしれません。

母が亡くなり、1年後くらいの時でした。民友新聞を拝見しますと、父が畑でトラクターに乗っている写真と記事が載っているではありませんか。母が亡くなった時、あれほど悲しみ、あれほど目を赤くして泣いていた父が、青空の下でトラクターに乗り頑張っている姿でした。民友新聞さんに父は、元気をいただきました。あの時の喜んでいた父の顔を忘れることができません。

そんな父も旅立って14年になります。今はきっと、母と2人で仲良くお話をしながらお茶でも飲んでいることと思います。心から父母へ伝えたいと思います。「ありがとう」。そして何より、民友さんへ「ありがとう」。

思い出の中に

会津若松市 鴨井 喜子さん(78)

新聞の広告で見つけた唐桑半島の宿。おいしそうな海鮮料理にひかれ、夫の運転で出かけました。日頃、山に囲まれた場所に住む私たちにとって海辺の宿は魅力的で、目の前に並ぶ新鮮な料理と地酒に夫は上機嫌。景色も満喫し、帰宅してからも広告を見ては思い出話をしていました。そんな時、東日本大震災が起こりあの宿の広告が消えました。予想もしないことが起こったのです。

どのくらい経った時でしょうか、あの宿の広告を目にしました。新しい外観にほっとし、二人には忘れられない思い出になりました。

投稿を考え病と闘う

二本松市 土屋 博さん(96)

「検査の結果『進行性悪性リンパ腫』である。このままでは約半年で全身転移だ」の宣告を受け、病室の関係などから医大病院ではなく郡山の病院に入院した。平成30年1月のことである。

「もう充分生きた。後悔なし」と強がってはみたものの、入院してみるとついつい暗い思いばかりが頭をよぎるのだった。これではいかぬとこの病を基に投稿文を考えることにした。

「あえて文体が暗くならぬように」「今、私の体の中では戦争？が起きている。」とそんな書き出しで、わざと戯文調の闘病文を「窓」に投稿した。幸いに3月半ばに掲載された。かみさんに怒られたが、新旧を問わず多くの知人友人から懐かしき声や励ましをもらったのである。

それは私の大きな闘病の支えになったのであることは言うまでもない。なお、病は薬石効あり5月末に退院できたのである。

高校入試発表

会津若松市 永峯 まり子さん(66)

今から50年くらい前は、県立高校合格者の名前が翌日の新聞に掲載されました。そして親せきや、先生方から祝福の言葉をいただきました。今はブライバシーにも関わるが、昔は風物詩でした。

自分の名前が切りとり、今でも大事にアルバムに貼ってあります。また、友達の名前をみつけたり、高校生活の友人関係に役立てたり、その時の春休みは一番のんきにすごしたおぼえがあります。

その後の先生方の異動発表も、マーカーでしるしをつけています。この頃から新聞に興味を持ち始めたような気がします。古き良き時代でした。

＼気持ち、やる気ももっと熱く！／

HOTにTOHO



すべてを地域のために

東邦銀行



ニュースの全体像把握

